

関西健康・医療創生会議の 取り組みを中心に

京都大学元総長
関西広域連合顧問
関西健康・医療創生会議議長
井村 裕夫

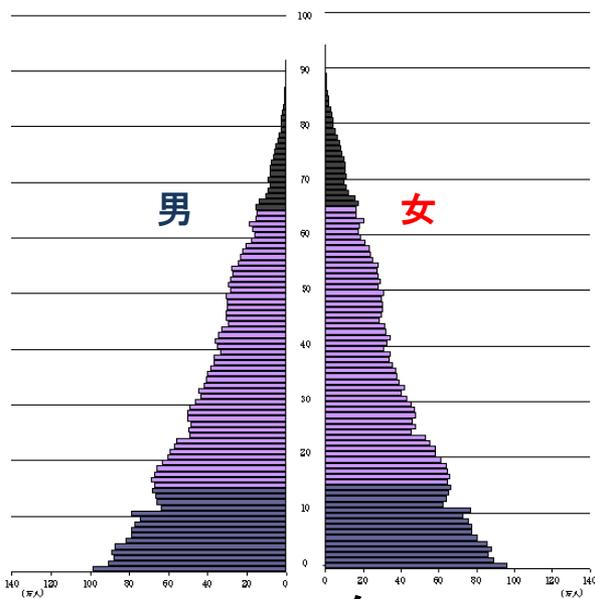
人口ピラミッドの変遷

総務省統計局ホームページより引用

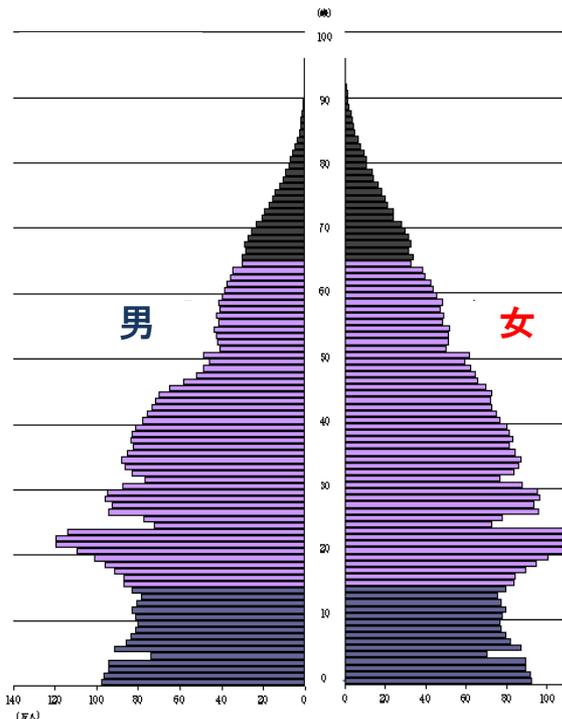
2025年

総医療費: 53.3兆円

介護費: 19.7兆円



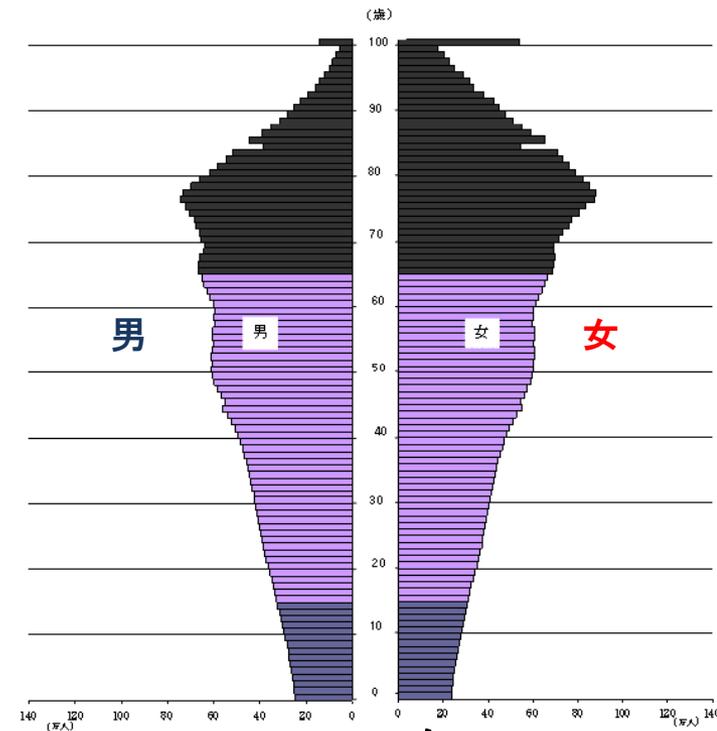
1930年



1970年



2010年



2050年

少子高齢社会における 重要な医学の課題

✓ 予防, とくに先制医療

✓ 寝たきりの防止

フレイル対策, ロボット, リハビリ

✓ 再生医療

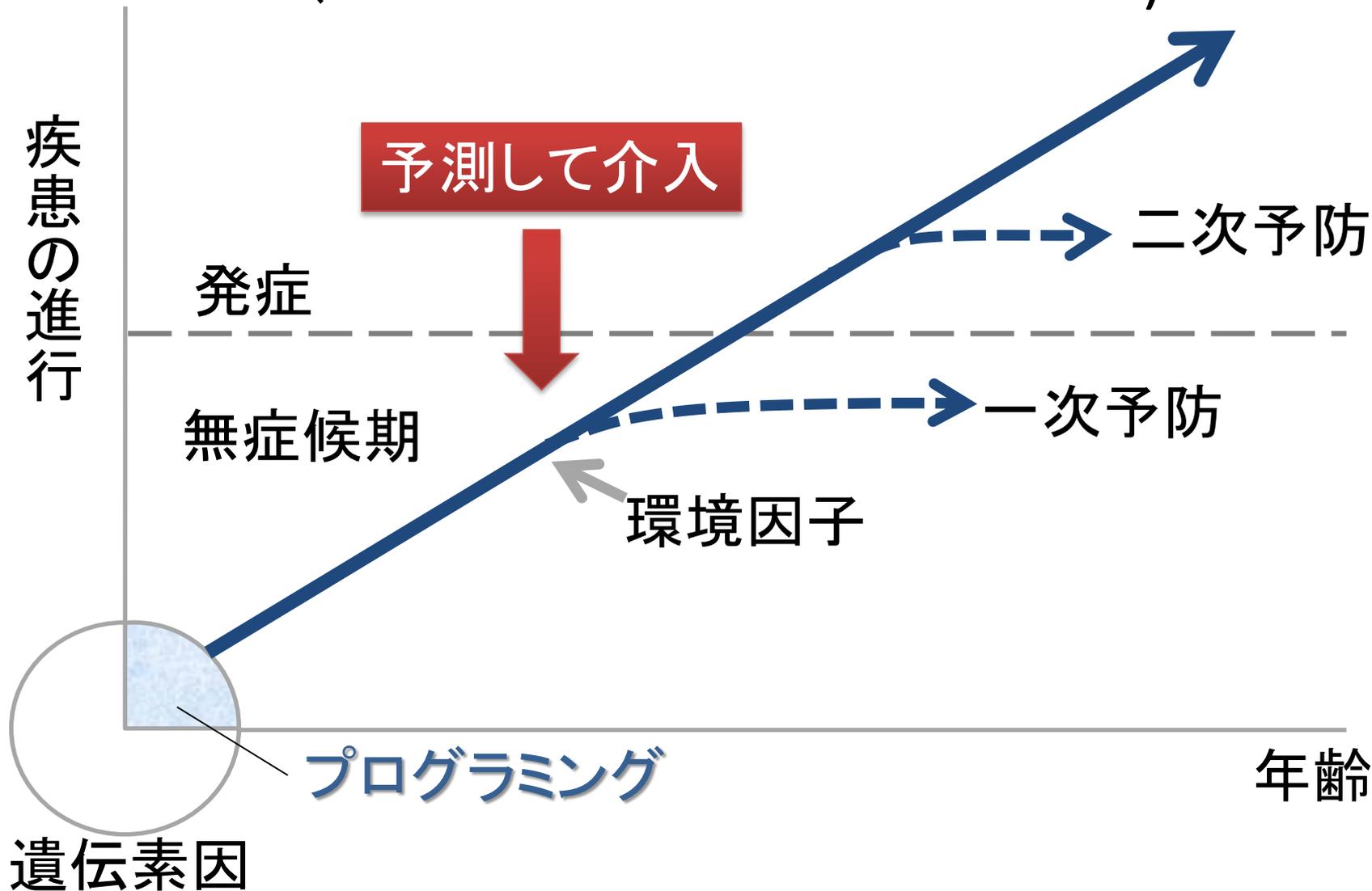
✓ 精密医療

個の医療による効率化, ゲノムの重要性

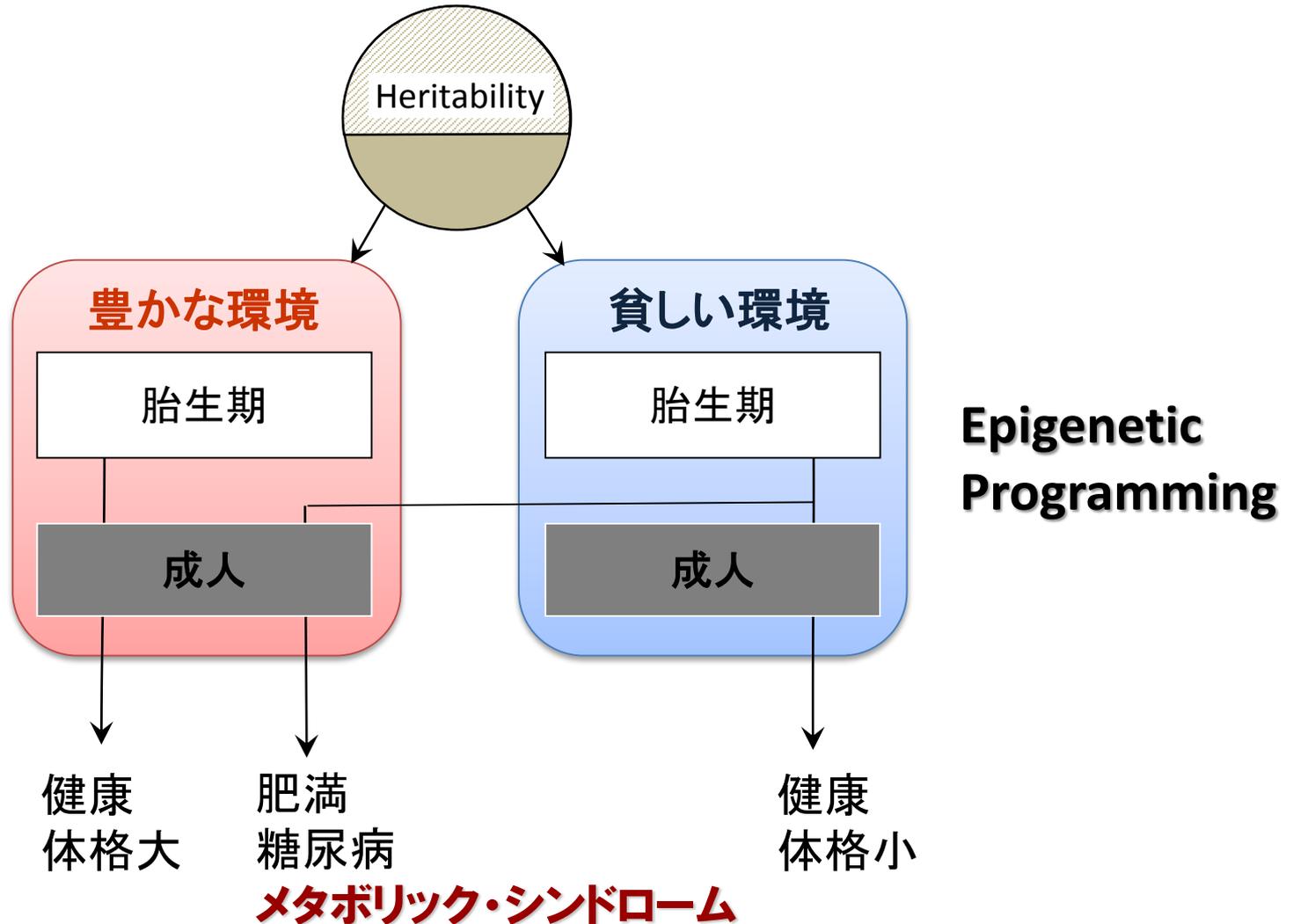
✓ 精神疾患

病院から地域へ
医療情報の活用

加齢に伴う非感染性疾患 (Non-communicable Diseases)



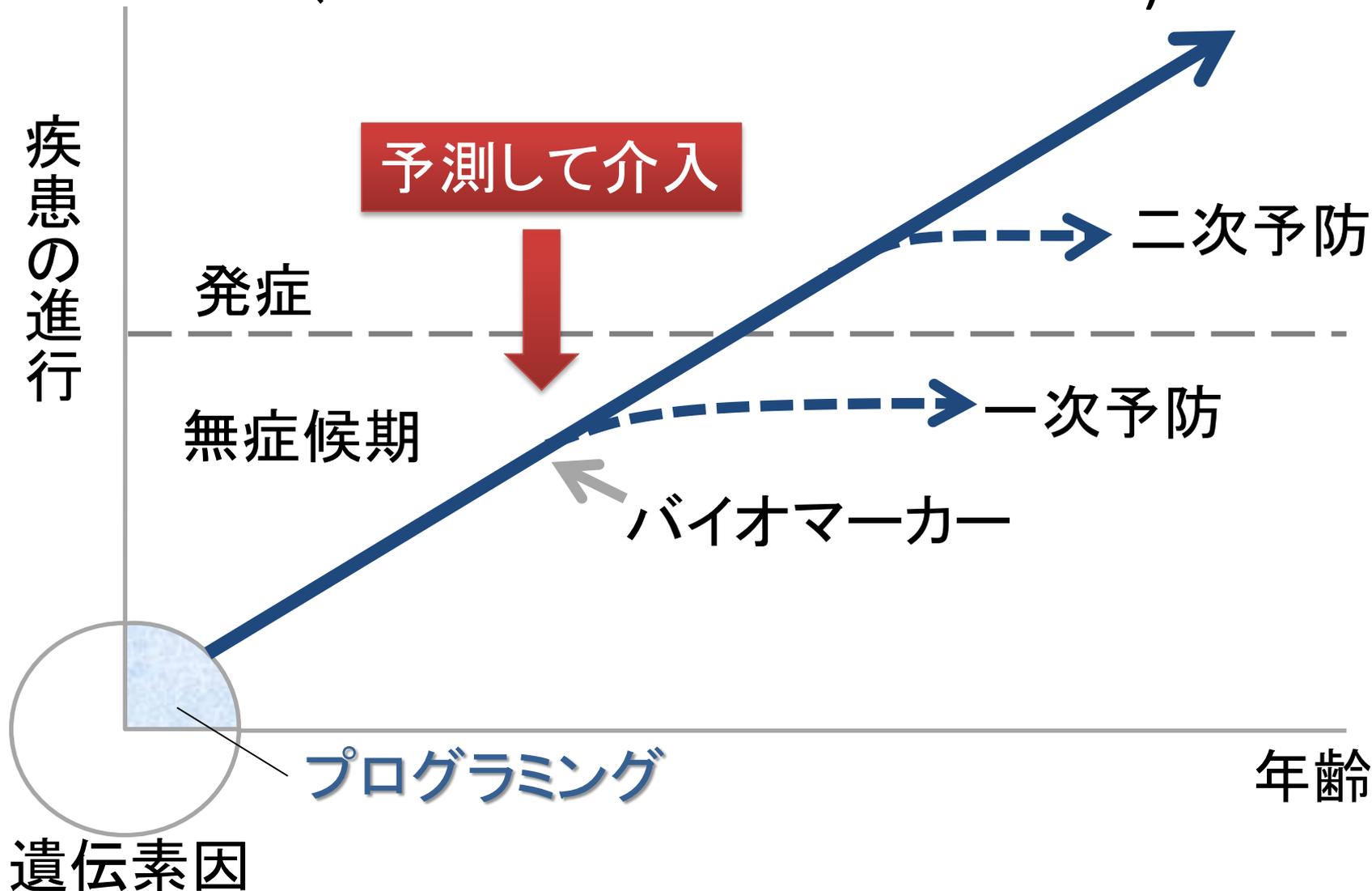
発達プログラミングまたはDOHaD説 (Developmental Origin of Health and Disease)



低体重出生と後年のNCDの発生頻度 の上昇

オランダの飢餓	Barkerの研究	ヘルシンキ・コホート
CHD T2D 高血圧 メタボ・シンドローム 腎機能低下 脂質異常性 認知機能低下	CHD T2D 高血圧 メタボ・シンドローム	CHD T2D 高血圧 脳卒中 認知機能低下 脂質異常症 甲状腺機能低下 うつ病
	英国出生コホート	
	高血圧 腎機能低下 T2D	

非感染性疾患の経過と先制医療 (Non-communicable Diseases)



これからの検討課題

✓ 遺伝素因の解明

全ゲノム解析, ゲノムコホート

✓ 発達プログラミング (DOHaD)

コホートによる前向き研究(胎生期及び生後の
様々な時期の情報)
エピゲノム研究(とくにヒト)

✓ 先制医療

バイオマーカーの開発
介入方法

✓ 新しいパブリックヘルスとビッグデータの活用

体制づくり(広報活動など)

関西健康・医療創生会議

目的 関西地区における健康関連研究の推進
健康・医療関連産業の振興
住民の健康の維持への支援

組織 関西広域連合(連合長 井戸兵庫県知事)
経済団体: 関経連, 大阪・京都・神戸商工会議所
大学・研究機関: 関西地区12の大学医学部・医科大学
徳島・鳥取の大学医学部, 国立循環器病センター
理化学研究所など

常任幹事会を設置
NPO法人の設置
設立記念シンポジウムの実施

関西健康・医療創生会議 分科会

1 医療情報	<p>会長 吉原博幸(京都大学名誉教授, 宮崎大学病院長)</p> <p>関西地区の主要病院におけるヘルスケア・データの収集, 個人情報保護の研究, 二次利用の方法の検討など</p>
2 遠隔医療	<p>会長 真鍋俊明(京都大学名誉教授, 滋賀県立成人病センター総長)</p> <p>脳血管障害などの画像の早期診断, 遠隔病理診断, 人工知能の研究など</p>
3 健康 まちづくり	<p>会長 細井祐司(奈良県立医科大学長)</p> <p>健康なまちづくり, 新しい技術開発(センサーなど)</p>
4 認知症 対策	<p>会長 前田潔(神戸大学名誉教授, 神戸学院大学教授)</p> <p>初期認知症の診断基準の確立と対策、認知症の医療介護対策(ロボテイクスも含め)</p>
5 人材育成	<p>会長 澤 芳樹(大坂大学教授)</p> <p>バイオインフォマティクスなど先端医学関係の人材の育成</p>